



玉野高 トップ切り学園祭

市内の高校学園祭のトップを切って11日、玉野高の「玉高祭」が開幕した。初日の文化祭は、新型コロナウイルスの感染防止のため恒例の模擬店を取りやめ、日程を短縮するなど規模を縮小したが、生徒たちは工夫を凝らした展示やステージを繰り広げ、年に一度の祭典を楽しんだ。

展示は各部、委員会のほか、1〜3年が縦割りの4ブロックに分かれて発表。SDGs（持続可能な開発目標）の一つ「つくる責任つかう責任」とコロナ後の生活がテーマのBブロックは、海や空の青色で飾り付けた教室の床に砂をまいてビーチを設け、「浴衣を着て夏祭り」「甲子園」といった来夏の目標を書いた空き瓶を置いた。

お祭りをテーマに教室を暗くして射的やヨーヨー釣りの夜店を出したり、宇宙をテーマにロケットや宇宙

規模縮小も 展示、舞台に光る熱意



玉高祭の文化祭で音楽に乗せて踊りを披露するバトン部員たち

ステーションの模型を作ったりしたブロックもあった。体育館のステージでは、吹奏楽部や演劇部が日頃の練習の成果を披露。バトン部は人気アイ

12日の体育祭も一般公開しない。玉野商工高の「雄心祭」は11月10、11日、備南高の「臥竜祭」は同6日、12月18日に予定。光南高の「紫稜祭」は中止が決まっている。

（内田貴大）

教室に作ったビーチに来夏の目標を書いた空き瓶を並べた展示
ドルグループの曲で踊り、鑑賞した生徒は赤や黄色のライトスティックを振って盛り上げた。
生徒会の一員として開会式を渡り廊下で行うなど、できることを前向きに考えたという3年若尾道元さん(18)は「イベントが減った分、一つ一つに集中できた。最後の玉高祭をしっかりと楽しみたい」と話した。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。